IGF2021

D2−1パネルディスカッション

「日本におけるマルチステークホルダーでの インターネット政策対話の場を目指して」

2021年10月28日
加藤幹之

(c) Masanobu Katoh, 2021

IGFの意義

- IGFは決議機関ではなく、意見交換の場
- 多くのワークショップやセミナーを並行して開催
- 途上国を含む多くの人々が参加
- 市民社会やNPO等を含む、マルチステークホルダーがいろいろな立場から参加
- 自発的なダイナミック・コアリションの台頭
- 政治的対立の場から対話の場へ変化

なぜ日本でインターネット・ガバナンスの議論が盛り上がらないのか？

- 産業界にとってみると、ビジネスに直接つながらない制度や政策議論には関心が薄い？
- IGの議論が良く分からない――技術問題、国際政治問題と日常の社会問題の係わりが説明できない
- インターネットの世界は研究者や一部の関係者の世界？
- 英語や文化の制約があり、日本にとっては参加しにくい？
- 決議機関でなく、単なる意見交換の場であることから、効果に疑問？
- インターネットは日常のものとなり、制度や政策議論の必要性を感じない？

日本もIGFの議論に積極的に参加しよう

- インターネットは社会の重要なインフラとなった――日本の安全保障、国益確保の観点からも制度問題は重要な事項
- セキュリティー、犯罪防止、スパム、知的財産権制度、表現の自由、情報保護とプライバシー、さらにはAI等の新しい技術・ビジネスに関して極めて広範な問題が議論されている
- 世界の人々は積極的に議論に参加している。NRIの活動もさらに活発化している――欧米だけでなくBRICsや途上国の参加も増えている。欧米のビジネス界も関心が高い
- 世界の専門家が数千人集まる場で、最先端の貴重な情報が得られる
- 国際社会に向けて日本の意見や情報を発信する良い機会である